

### 埼玉県立大宮光陵高等学校 中期構想について

25年後の2050年には日本の生産年齢人口は現在の約3分の2に減少します。

そのような社会では新たな未来を牽引する人材が求められます。現在は「注意深さや真面目さ、粘り強さ」などが大事にされていますが、2050年の社会では「問題発見力や革新性、的確な予測や決定」などが一層重んじられます。未来を生きる子どもたちは、確かな知識や豊かな人間性ととともに、新たな力を自ら育てていくことが求められています。

大宮光陵高等学校は創立40周年を迎えました。この節目の年に、これまでの成果を引き継ぎ、新たに打ち立てた「**OK Project ～好きを究めて、自分を磨く～**」を幹として、さらなる発展を目指し中期構想を策定しました。

〈期 間〉 令和8年度(2026)から令和10年度(2029)の3年間

〈基本理念〉 好きなことに夢中になれる光陵教育

〈基本目標〉

- 1 確かな知識を土台に得意を伸ばす
- 2 対話と合意で新しい解(納得解)を創る
- 3 しなやかでたくましい心と体を育む

〈3年後の到達目標と主な方策〉

1 確かな知識を土台に得意を伸ばす

・到達目標

- 授業に意欲的に取り組んだ生徒の割合(生徒の自己評価による) 80%
- 学力の伸長を実感できた生徒の割合(生徒の自己評価による) 60%
- 資格取得試験合格者の増加
- 進路実現に向けて積極的に取り組んだ生徒の割合(生徒の自己評価による) 70%

・主な方策

- ICT等を活用して、楽しくかつ分かりやすい授業を実践する。
- 総合的な探究の時間等を活用して、キャリア教育を計画的に行う。
- 読書活動を充実させたり自習室を整備したりして、自律した学習に取り組めるようにする。

## 2 対話と合意で新しい解(納得解)を創る

### ・到達目標

- 文化祭や体育祭、遠足や修学旅行などの学校行事で周囲と協力して  
取り組めた生徒の割合(生徒の自己評価による) 90%
- けじめがあり、充実した高校生活を送っていると思う生徒の割合  
(生徒の自己評価による) 80%
- 相手の立場を思いやり、誠実に行動できる生徒の割合(生徒の自己評価  
による) 80%

### ・主な方策

- 生徒自らがさらに主体的に学校行事に取り組めるよう努める。
- 学科間の交流の場を設定する。
- あいさつやマナーを向上させるような取り組みを行う。
- 個に応じた心身の発達を促すような取り組みを充実させる。

## 3 しなやかでたくましい心と体を育む

### ・到達目標

- 部活動に主体的に取り組んでいる生徒の割合(生徒の自己評価による) 80%
- 地域社会との交流や国際交流に参加する生徒の増加
- 家庭と学校との連携の強化

### ・主な方策

- 部活動の加入率を向上させる。
- 地域社会との交流や国際交流を通して、さまざまな体験活動の機会を増やす。
- 家庭と学校が一体となって生徒の成長を見守れるよう、面談等の機会を増やす。